父不見山（ててみえず山）　山行日：１１月２９日（火）晴れ　記：TI

コース：自宅 5:15ー秩父小鹿野町経由杉ノ峠登山口 9:15/18…杉ノ峠 9:35…父不見山 10:04/10…長久保ノ頭（大塚）10:25/30…鐘撞峠 11:22…杉ノ峠登山口 11:47

尾崎喜八の「神流川紀行」により知った山へ、我が家から 4 時間の行程、山にいるより往復の時間に疲れが増した。
戦前の話だが、万場の宿において「父不見　御荷鉾も見えず神流川星ばかりなる万場の泊まり」という一首を詠んだ。

杉ノ峠登山口　草に埋もれるような取付き、古い道標がいかにもといった感じ！

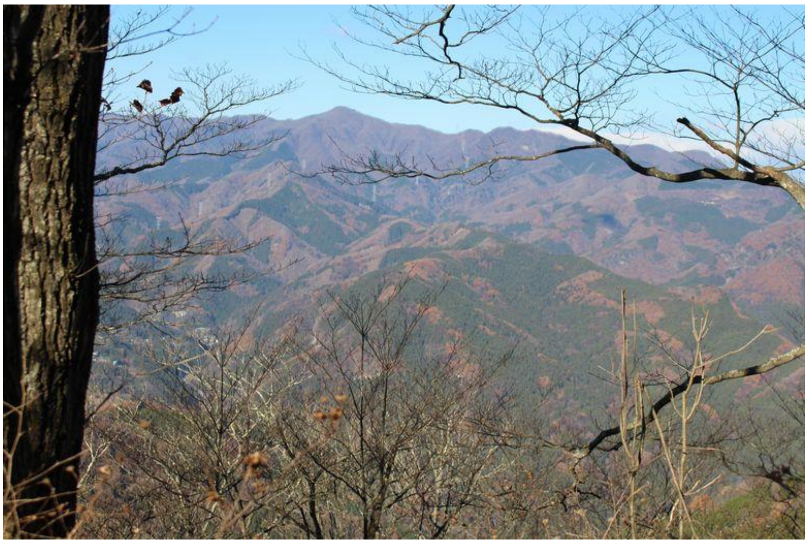
植林の道を15分、峠には檜の大木に挟まれ石の祠が祀られていた。
万場から秩父への古い道らしい。

北側から冷たい風が吹きつける。
汗をかくこともなく山頂へ
展望の楽しみも期待できない！

念願の山頂、西上州の山々が木々の間から望むことが出来る。

山頂にある三角天と刻まれた石、何を表しているものかわかりません。

十数年前に行った赤久縄山とご対面、一等三角点が設置されている。
上越の山や浅間山が望めます。
下の集落は万場です。
尾崎喜八は今井屋に宿泊の折、先の「父不見…」を詠んだという。
昔の人は羨ましい山旅をしている。
この時には小海へ抜けている。
勿論歩いてのことです。



長久保ノ頭　二等三角点

長久保ノ頭にて

下山の尾根から両神山（深田久弥の日本百名山）

両神山近くにある二子山、中間の股峠から左右のピークへ登れますが、岩の厳しい道です。
特に右側の峰は厳しいです。

奥に薄く見える山は、先日登った和名倉山です。
どっしりした山容です。

名峰「武甲山」です。セメントの材料産出により、さらに変形したように思えます。
この山が我が家から見えるのです。
その向こう側には武川岳（皆さんと言ったところです）
武甲正宗が美味しかった！

鐘撞峠　なんの表示もなく、踏み跡もかすかにあるのみでした。実線表示となっています。

フラワーラインとやら、この林道が、です！